1801年――女であることを最高にエンジョイした女がいた。

winner in life

THE WOMAN

ザ・ウーマン

成人映画

佳那晃子・中野誠也/池波志乃/中尾 彬・仲谷 昇・左 時枝/山谷初男/大林直彦/森川正太/阿藤 海・小沢昭一・西村 晃

製作/松原久晴●監督/高林陽一●企画/小池一夫/松原久晴●原案/林 美一●脚本/星川清司●撮影/稲垣涌三●美術/木村威夫●音楽/菊池俊輔〈サンドラ盤〉コロムビア・レコード●カラー作品●製作/株友映●東宝東和提供 TOWA

THE WOMAN ザ・ウーマン

製作/㈱友映●カラー作品●東宝東和提供 TOWA

文化が爛熟から退廃の色合いを濃くしていた江戸末期、ひとりの女が町中の話題を独占した。女義太夫として鳴らした竹本小伝は、人妻でありながら、男心をそそる美貌と性的魅力でさまざまな男たちと関係する。これは、自由奔放に生きた実在の〝ザ・ウーマン〟小伝をヒロインに、彼女をとりまく男女の濃密なエロスの世界を極彩色に描いた《愛のロマネスク》である。

監督は「本陣殺人事件」や文部大臣賞に輝く「金閣寺」の高林陽一。ヒロインの小伝には「四季・奈津子」の波留子役で脚光を浴びた佳那晃子。そして中野誠也、ベテラン仲谷昇。また、池波志乃と中尾彬が夫婦で共演のほか、西村晃、小沢昭一、左時枝、山谷初男ら、芸達者がずらりと顔をそろえている。

スキャンダラスに……

ある日「あんばいよしの小伝の好(このみ)」と題する前代未聞の間男番付が瓦版で売り出され、さしもの江戸っ子たちをビックリさせた。番付によれば、娘の頃から手当り次第に男狂いをしたという。その名はたちまち江戸中の大評判となり、彼女の噂の出ないところはない。当代随一の人気役者である夫の三寿五郎も表面は平気な顔だが、夜の契りもはや、たえだえなだけに気が気ではない。

小　伝「あたしって、そういう生れつきなのか、ときどきふるえるほどみだらな気分をそそられれて、どうにも抑えようが……」

可愛く…

みだらな目をギラギラ光らせて、小伝のまわりにはいろんな男たちが、群がって来る。田舎の豪農、医者の玄石、女形の瀬川幾之丞……と小伝の性の遍歴は続くが、いつも心は満たされない。そんなときに出会ったのが、七之助だった。ふたりは、いつしか狂おしい性の深淵へと沈んでいった。

小　伝「もうどうにもならない……どんな目に会おうと、死ぬまでこうして……あたしたち気が狂ったのよ」

はげしく……

七之助をかねてから手配中の大名荒しと知った八丁堀の同心、飯尾藤十郎はふたりの密会の現場へ踏み込んだ。しかし小伝は裸身を楯に七之助を逃した。飯尾は以前から小伝に目をつけていたのだ。

小　伝「それこそ死ぬような思いのはずだったのに、あたしは体がしびれてきて、とろけるような気分でした。恥しいことだけど、声さえ出して…いやだ、こんなあさましいあたし」

したたかに……

七之助が江戸から消え、小伝は死にたいほどの寂しさとむなしさに沈んでいた。しかし、瓦版の法界屋の主に勇気づけられると、再び笑顔をとりもどした。江戸の町々に新しい小伝の間男番付が売り出された頃、小伝はあれほど気ままで居心地のよい三寿五郎のもとに帰らなかった。はたして、桜吹雪の下で小伝が抱いた男は、いったい誰だったのだろうか……。

法界屋「お前は女だよ、それこそ正真正銘の。だからお前は恥なんだ、誇らしく淫らなんだ、おそろしくって、楽しくって、濟(けが)れていて、いちばん神さまに近い生き物なんだ」

ただ　ひたすらに女でいたい——。

●男たちよ——
これほど《いとおしい女》に出会えましたか？

●女たちよ——
ほんとうに《自由》に翔んでいますか？

11月中旬より《飛翔》のロードショー

歌舞伎町
新宿オデヲン座 (202) 5657